

橿原運動公園再整備基本計画(案) 概要版

●本計画の目的

橿原運動公園について、令和13年の国民スポーツ大会・全国パラスポーツ大会を契機として、今以上に市民に愛される施設となるような整備について、基本構想を踏まえた整備内容を取り纏めるもの

●橿原運動公園 全体整備計画

■基本構想を踏まえ、既存公園の北東用地(約5ha)を新たな公園用地として拡張し、**新体育館・屋内プール**等を新たに整備。

※拡張用地について、試掘調査やボーリング調査(令和8年度実施予定)の結果を踏まえて施設配置を確定。



- 新体育館・屋内プール及び広場エリアは拡張用地の東側に配置予定、拡張用地東側にある幹線道路や新たに整備される慈明寺町・四条町線とのアクセスを創出。
- 駐車場エリアは拡張用地の西側に配置予定、公園内の既存施設を利用する際や公園全体で大規模なイベントを開催する際の目的施設との近接性を確保。
- 駐車場エリアへの出入口の数および位置、誘導ルート等については、今後、警察協議等を踏まえて決定。

●橿原運動公園 新施設整備計画

■拡張用地において、橿原市景観条例や都市公園法等の法的要件を満たす、以下の新体育館・屋内プール等の整備を行う。

●新体育館整備計画 導入機能・規模及び平断面イメージ

	機能	諸室	想定床面積
1階	スポーツ施設	■メインアリーナ(48.2m×34.4m:バスケットボール2面、バトミントン12面、バレー3面分) ■多目的スタジオ(18m×12m:バトミントン1面相当)	約6,300㎡
	付帯施設・共用部	■更衣室・シャワー室・トイレ ■放送室・審判室 ■管理事務室 ■防災備蓄倉庫 ■選挙用倉庫 ■会議室・多目的室 ■器具庫・機械室 ■ホール ■EV・階段	
	スポーツ施設	■観覧席(固定席1200席、車椅子等多目的観覧席含む) ■通路	
2階	付帯施設・共用部	■トイレ ■ホール ■EV・階段 ■テラス ■設備スペース	

※国民スポーツ大会・全国パラスポーツ大会の会場としての役割を果たす水準を備える

●屋内プール整備計画 導入機能・規模及び平断面イメージ

	機能	諸室	想定床面積
1階	スポーツ施設	■25mプール(10レーン、水深1.35m以上、可動床予定) ■子供用プール(15m×10m、水深0.6m)	約3,500㎡
	付帯施設・共用部	■更衣室・シャワー室・トイレ ■事務室 ■医務室・監視員室 ■採暖室 ■放送室 ■会議室・多目的室 ■器具庫 ■トレーニングルーム ■ホール ■観覧スペース	

※市内小中学校水泳授業の包括的受け入れ、市民大会などの拠点、部活動地域展開の拠点としての水準を備える
※日本一安全・安心なプールを目指して、十分な監視体制に加え、最新設備・技術の導入についても検討する

◆防災機能

インフラの遮断を伴うような大規模な災害時においても、人命を守り、避難施設として必要な機能を確保できる計画とする。

大規模災害時に必要な機能(新体育館・屋内プール)	
避難所	災害時排水(緊急排水貯留槽)
災害時電力供給(非常用発電)	災害対策本部との連携
資機材備蓄(防災備蓄倉庫)	救護(災害救護活動)
非常用飲料水・トイレ洗浄(受水槽)	災害時通信機能(防災無線)

●駐車場計画

大会・イベント開催にも対応できる台数を確保。

場所	現状の台数	整備後の台数
南駐車場	193(大型4)	193(大型4)
西駐車場	137	137
大駐車場	443(大型18)	443(大型18)
管理事務所前	54	54
北駐車場	56(大型1)	56(大型1)
東駐車場	82	(北東駐車場)
臨時駐車場	100	(北東駐車場)
北東駐車場	-	約600
合計	1,065	約1,480



●ランドスケープ計画

市民の親水空間に対する需要を考慮し、子ども達のための親水空間を整備。また、昨今の気候変動に対応し、熱中症対策の機能を持たせることも検討。
広場エリアの整備については、管理が困難な樹木は避け、平地の芝生など管理しやすい植栽計画とする。

●構造計画

多くの人々が利用し、大規模災害時における指定避難所となる重要な施設でもあることから、安全に利用できる建物水準とする。
国土交通省の「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」に基づき、避難所として位置づけられる体育館の耐震安全性の分類を、構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備乙類とし、災害時の安全性確保に十分配慮する。

●橿原運動公園再整備事業の推進に向けて

【建築工事費概算】

項目	概算費用	内容
新体育館建設費	約48億円	備品調達費等は含んでいない
屋内プール建設費	約33億円	可動床導入費含む

※上記金額は税抜き、インフラ盛替え工事費等は含んでいない。今後、建設費高騰に伴う見直しが必要。

【事業手法】

本事業では、土木・建設業界の動向を見定め、令和13(2031)年の国スポ・全パラスポまでの供用開始の実現可能性が最も高い事業手法を採用する。

想定事業手法	従来方式(基本・実施設計一括)またはDB方式(基本設計～施工)
--------	---------------------------------

※今後さらに精査の上、確定する。

【事業スケジュール】

工程	年度	令和8(2026)	令和9(2027)	令和10(2028)	令和11(2029)	令和12(2030)	令和13(2031)
試掘調査等・施設配置確定		→					
拡張用地造成設計(予備・詳細)			→				
造成工事				→			
従来方式(基本・実施設計一括)の場合			基本設計・実施設計		→	施工	→
DB方式の場合				基本設計・実施設計・施工			→

国スポ全パラスポ
奈良大会